

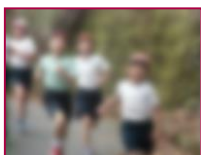
学校だより

大津市立葛川小中学校

平成27年12月号

2学期を振り返って

四季折々に、豊かな自然の移り変わりが見られる葛川と久多。その中でも、「秋」は群を抜いてすばらしいと感じます。山の木々が、赤・黄・茶に染まって絨毯のように見える頃、自然の中で生まれ、生かされていると強く実感します。学校では、ちょうど「2学期」に当たり、子どもたちが最も成長するときです。



運動会、紅葉祭をはじめ数々の行事や体験活動を通して、友達との絆をより強め、先生たちとの信頼関係を深める中で、どの子どもも少しずつ『学習面』『健康と体力』そして『自分らしさ』を成長させてきたことを大変嬉しく思います。成長には個人差がつきものです。他の子どもたちや兄弟と比較するのではなく、その子の中の成長した部分をご家族で認め、褒め、励ましていただければ、子どもはより大きく成長していきます。ただ、子どもは家庭と学校で違った自分を見せることもあります。学校と家庭が十分に



連絡を取り合って子どもの成長を見守っていききたいと思います。気になること等がありましたら、

気軽にご相談ください。

人権学習の取り組み

世界人権宣言の採択を受け、「人権週間 12/4～10」の取り組みが、どこの学校でも行われています。「世界人権宣言」には、「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利について平等である。」とうたわれています。



さて、小学校では、日常生活において生じる次のようなトラブルを題材に、全校で一緒に考えました。題材：「授業中に問題を解いているとき、早く問題を解いた

Bさんは、まだ解けていないAさんに一方的に教えようとしてしました。しかし、AさんはBさんのその行為を快く受け取れず、すねてしまいました。」

「このとき、Aさん、Bさんはどうすればよかったのか」をグループで考え、その後全校で意見を交換しました。人の立場に立って考えることの難しさや大切さを学びました。

中学校では、LAKE SHIGA 車椅子バスケットボールクラブから、2名の講師の方に来ていただき、障害者の問題について学びました。車椅子バスケットボールを

一緒に体験することで、車椅子バスケットボールの魅力や楽しさを知る一方で、自ら交通事故によって身体障害者になられた講師さんより、貴重な体験談を聞かせていただき、障害者に対しての配慮や社会で自立して生きていくためには、周囲からの支援が大事であることを学びました。



一生徒感想よりー

この社会には、身体が不自由な人、人と話すのが苦手な人などがいます。だから、人権を大切にし、誰もが住みよい社会を創っていかねばいけないと思いました。(バリアフリーな公共施設作りや人に対する偏見をなくす学習など)

学校外での各種体験

へき地少人数の子どもたちは、人前で話すことに引っ込み思案になったり、新しい人間関係を築くことをためらう傾向があると言われることがあります。小規模の集団では、学習や生活環境に刺激や変化が少なく、安心して落ち着いた学校生活を送れる反面、大きな環境変化に出会うと戸惑うのは当然かもしれません。そこで、学校としては、発達年齢に応じて、他の学校園や施設などを訪問し、体験活動をして



しています。たとえば、地域ボランティアの方との交流、保育園との交流（伊香立・朽木）、公共施設見学、フローティング・スクール、大規模校体験（真野中）、職場体験、部活動練習試合など……。出かける前は、かなり緊張もしていますが、行った先々で、初めての人たちと出会い、活動を通して、たくさんのことを学んできました。

～職場体験の感想より～

職場体験中の5日間は、とても長く感じました。1日目はとても緊張しました。何をしたらいいのかよくわからなくて、知らない人ばかりで少し困りました。でも、優しい方が声をかけてくださって、自分のできる仕事を見つけられ、とてもホッとしました。…中略…立ち仕事で辛いこともあったけど、普段できないことができて、いい経験になったと思います。

